

令和2年度 第3回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和3年3月23日（火） 午後1時30分～3時35分

会場：千葉県立中央博物館 講堂

出席者：委員 西田委員（議長）、高橋委員（副議長）、前林委員、
細井委員、湯浅委員、米本委員

博物館 美術館：道上館長、中松学芸課長

中央博物館：古泉館長、植野副館長

現代産業科学館：永島館長、森学芸課長

関宿城博物館：鈴木館長、尾崎学芸課長

房総のむら：小久貫副館長

文化財課 学芸振興室：神野室長

事務局 中央博物館：島立企画調整課長、相原上席研究員、

吹春上席研究員（記録）、小出研究員、伴研究員

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 第2回協議会での委員からの質問と回答
※補足資料：質問と回答補足（①～⑩）
※補足資料：第2回協議会議事録

1 開会【事務局】：午後1時30分

委員10名のうち6名の出席により会議成立。

傍聴者1名。

2 あいさつ【古泉中央博物館長】：午後1時30分～1時32分

3 議事：午後1時35分～3時30分（別紙参照）

4 諸連絡【事務局】：午後3時30分～3時35分

5 閉会：午後3時35分

(別紙)

【議事】

○西田議長：

議長の西田でございます。本日も活発な御協議よろしくお願い申し上げます。

○西田議長：傍聴者は本日ございますか。

○事務局：1名、いらっしゃいます。

○西田議長：それでは、入室をお願いします。

○西田議長：

今回は第2回の協議会で、皆さまから頂きました質問に、各館から回答を頂く形で進めます。それぞれに関連する質問がありましたら、この場でお願いいたします。それではお手元の議事資料に沿って各館から説明をお願いします。

●議事資料1「収蔵施設等のインフラについて」(配布資料1-2頁)、各館説明

●議事資料2-1「収集方針、資料の扱い方など；資料①」参照(配布資料2頁)、各館説明

●議事資料2-2「資料の保存と公開・展示の兼ね合いはどうか」参照(配布資料2-3頁)、各館説明

●議事資料2-3「民俗資料の保存期間」参照(配布資料3頁；資料②)、各館説明

○西田議長：

博物館資料は保存が前提なのだと思います。しかし、使うことを前提につくられたもの、例えば玩具などについては、房総のむらで行われているように「作り方を継承していく」という、別の意味での保存も行われているということですね。いわゆる「伝統工芸を受け継いでいく」ということで、文化を継承することによる保存もあるという御説明でした。

○高橋副議長：

展示することによる資料の傷みはどの程度なののでしょうか。例えば「ワラ製品」などは、保管しているだけでも劣化してしまいそうに思えます。脆弱な資料であっても、展

示をしなければ良い状態でずっと保管し続けることができるのでしょうか。

○房総のむら：

当館では通常の博物館にあるような展示室を持っておりません。資料は全て温湿度も考慮されていない露出展示です。さらに体験にも使っているため、手にとって見ていただける資料も多くあり、特段資料の傷みを考慮するような扱いはしておりません。

○高橋副議長：

痛みやすい資料の場合、例えば、展示はレプリカ、本物は保存というようなことで、劣化を防ぐような工夫は行われているのでしょうか。

○関宿城：

オビシャの道具などは脆弱なものですが、現在でも作成し続けている道具ですので、資料を保存すると同時に、その作り方などを詳細に記録することによって保存する、劣化の対策をとる、ということで対処しております。

○高橋副議長：

作り方をきちんとおさえる、文化の継承をおこなうことによる保存ということですね。了解しました。

●議事資料2-4「資料のデータベース化について」(配布資料3頁；資料③)、各館説明

●議事資料2-5「資料の交換等の仕組みはあるか」(配布資料4頁；資料④・⑤)、各館説明

○西田議長：

自然誌資料(標本)における交換と貸し借りについて御紹介いただきました。「地域の情報は世界の情報、世界の情報は地域の情報」ということで、研究機関や標本庫相互の連携が中央博物館でも行われているということですね。これは生物標本にかぎらず、人文資料でもそのようなことがあります。たとえばウラジオストックの博物館で日本の民具が展示されている例があります。今後、人文系の資料についても資料を交換しませんかということが出てくるかもしれません。

●議事資料2-6「資料の公開について」(配布資料4頁)、各館説明

○西田議長：

美術館の「デジタルミュージアム」について詳しくご紹介いただきました。もしサイトを見た人が質問をしたい場合、そのサイトに質問のボタン等はあるのでしょうか。

○美術館：

質問ボタンというものは設けておりませんが、美術館の代表メールアドレスに質問連絡頂ければ回答致します。

○高橋副議長：

どのようなコンテンツに県民の皆さんが興味を持たれているのか、ということは、ウェブサイトの運営にとっても重要であるかもしれませんね。「デジタルミュージアム」の各コンテンツのアクセス件数がわかる仕組みになっているのでしょうか。

○中央博：

コンテンツごとのアクセス数を表示できる仕組みは残念ながらございません。

●議事資料2-7「受託資料の現状と各館の方針について」（配布資料4-5頁；資料⑥・⑦）、各館説明

○湯浅委員：

私は第2回の協議会で「博物館は県民の蔵である」と表現しました。「蔵」というのは、かつて私が博物館の学芸員であったときに、住民とのつながりを重視すべきではないかという議論の中から出てきた言葉です。蔵には「蔵出し」とか「蔵でまちづくり」というような表現もあり、イメージとして市民にわかっていただきやすい言葉だと思います。

「蔵」という言葉を通して、今回2点申し上げたいと思います。ひとつには、皆様の博物館における受託活動等の御努力をアピールするための言葉として使えるのではないかということ。もうひとつは、先ほどの関宿城博物館の説明にありましたが「収蔵スペースに余裕はない、資料を受け入れる取捨選択は難しい」というような現状の中で、スペースを獲得していくための戦略的な言葉として「蔵」を、使えるのではないかということです。

ここで少し他県の博物館の例を紹介します。

『歴史館の収蔵庫、ほぼ満杯でピンチ 長野県民の「蔵」はいま』

(2021年3月15日、毎日新聞ウェブ版)

長野県立歴史館の収蔵資料の状況を紹介する新聞記事なのですが、その館長が新聞社を集めて、満杯の収蔵庫を案内し「何とかできないか」ということを訴え、記事を書いてもらったというものです。次は館長の言葉です。

「県立歴史館は県民の『蔵』でありたい。県民の代わりに私達が保管して後世に伝えていくのも役目の一つ。県民が正しい歴史を知るためには、私達がしっかり資料を集めてお

く必要がある。今の時代に評価されないものも、後世の人にとっては価値あるものかもしれないから」

歴史館の館長は博物館の機能を戦略的にアピールするために、「蔵」と表現されたのだと思います。すなわち博物館の収蔵スペースを確保するために、博物館の収蔵機能をイメージできる「蔵」という言葉を使い世間に訴えていく活動が行われているということです。このような要求や活動は、すぐに実現することではありません。しかし博物館が収蔵機能について抱えている問題を、「蔵」という表現を使い世間に訴えていくことで、県民の皆さんに博物館活動について広く分かっていただけるのではないかと、ということで御紹介致しました。

●議事資料2-8「寄贈資料について」（配布資料5頁；資料⑧）、各館説明

●議事資料2-9「写真資料などの収集方針」（配布資料5頁；資料⑨）、各館説明

●議事資料3-1「小学校の教育に収蔵資料が活用できるような仕組みはあるか」（配布資料5-6頁、資料⑩）、各館説明

○前林委員：

学校現場からひとこと申し上げます。この博物館の「学習キット」の資料は拝見したことはあります。しかし、学校現場でこの学習キットの案内資料をじっくり読んだりする時間はなかなかとれず、また日々の教員の生活の中で、この中から面白そうなキットを選び、子供達と体験してみるというようなことが現実的には難しいという状況です。私どもの同僚で「甲冑・小袖・袴試着体験キット」というものを試したものがおありまして、その際、確かに良い物であると思えました。どのキットも楽しく、学習効果があるものだと思うのですが、やはり利用に至るには難しいのが現実です。そこで博物館にお願いしたいのは、これらの学習キットが、それぞれに、どれくらい利用されているのか、また利用した場合の感想など「利用者の声」等を、キット紹介に併せてウェブサイト等で御紹介いただけると、利用に際しての判断も容易になると思っております。とても良いものがそろっているキットだと思うので、是非御検討ください。そしてもうひとつ、新型コロナの状況の中、家庭でもたのしめるコンテンツがあれば、よいなと思いました。

○回答・中央博：

それぞれのキットの利用件数などについてのデータは、各館がそれぞれに持っていると思いますが、本日は御紹介することができません。申しわけございません。利用促進につきましては、今日頂いたアドバイスを生かし、改善していきたいと思っております。ありがとうございます。

また、家庭で使える学習キットにつきましては、中央博では「おうちで中央博」というサイトを立ち上げております。千葉県の子や房総丘陵の自然について遊びながら学べる「双六」等、さまざまなコンテンツをダウンロードしていただけるようになっております。やや広報不足という面もございますが、今後もコンテンツを充実させていきたいと思っております。皆様からの御意見をもとに、使い勝手の改良や追加を続けていきたいと思っております。

●議事資料3-2「収蔵庫などのバックヤードツアーへの活用は」（配布資料6頁）、各館説明

○西田議長：

準備された委員からの質問は以上でございます。また沢山の質問に対して丁寧な説明をありがとうございました。それでは各委員の皆様から全体を通じて御意見をお願いします。

○米本委員：

今回、各館から説明をいただき、改めて博物館は面白いところだなと思えました。しかしながら、それをどのように伝えるかという、工夫やアイデアが更に必要なのではないかと思います。たとえばバックヤードツアーについては、収蔵品の管理等の面で制約が多く実施がなかなか難しいという御回答を頂きました。それならば、たとえばウェブ上でバーチャルリアリティとして実現する、あたかも博物館のバックヤードを訪れたかのような体験ができるようなコンテンツも必要ではないかと思えました。そして今日、県立博物館のウェブサイトのコンテンツが十分に充実しているということを御説明いただきましたが、もうひと押しするならばやはりそれを動画でと思った次第です。

また、今日一番面白かったのは、美術館のコンテンツ（デジタルミュージアム：パリの浅井忠）の紹介で、制作され御紹介いただいた学芸員の方の「浅井忠にちなんだホテルが高価で泊まれなかった」というところでした。このような身近に感じられる内容を含むウェブサイトである方が、より親近感をもって拝見できるのでは、と思えました。

○湯浅委員：

私が学芸員だったときに、もっと情報発信をして博物館をアピールしなさい、ということをよく言われました。今回、県立各館には沢山のコンテンツがあることを御紹介いただいたのですが、それを県民にどうやって伝えていくか、ということも、同時に大切なことだと思います。

また博物館は県民の蔵であるというようなことも申し上げたのですが、先に御紹介しました長野県立歴史館の館長は、新聞記者に対して「今日は特別に収蔵庫に入ってもらいま

すが、本当は誰も入れたくないぐらい温度や湿度の管理をしっかりとやっています。でも、記事にしてもらってこの問題を多くの人に考えてもらわないと」ということも同時に発言しておられます。収蔵庫が満杯で危機的な状況であることを訴えるために、新聞記者に対して、また県民に対して、懸命にアピールされている自治体があるということ、そのことをこの協議会でお伝えしたく、他県の博物館のことですが御紹介した次第です。

○高橋副議長：

資料の収納スペースの問題について、「県の教育委員会で検討中である」と御説明を頂きましたが、どのような議論がなされているのか、どういう方向になるのか、もう少し詳しい説明をいただきたいという希望を持ちました。

また資料を保管するバックヤードの維持管理について、ボランティアのことは伺いましたが、博物館側が考慮すべき、マンパワーのこと、また予算などが、十分に行き届いているのか、どのようになっているか、ということについても、もう少し詳しい内容や実情を伺いたいと思いました。

そして、壊れやすく劣化しやすい、脆弱な資料についても御紹介いただきました。そのような資料を修復していくということも博物館の一つの仕事ではないかと思うのですが、その修復については対策をたてておられるのか、そのあたりのことも伺いたいと思いました。

○前林委員：

私が小学校に勤めて思うのですが、小学生はみな博物館が大好きなんですね。けれども、いまひとつ博物館が身近に感じられないところがあるようです。子供達は未来の利用者でもありますので、博物館側からの素敵なアピールを期待致します。

これから小学生には一人一台のタブレット端末が配布されることになっています。いろいろな形で博物館にアクセスすることができる時代となりますので、どうぞ沢山誘惑していただきたくお願い致します。

○細井委員：

私は「千葉県子ども会育成連合会」という中で「自分達で見て、聞いて、感じて、そして発見していく」というコンセプトで活動しております。「体験こそ力」というのが信条です。

今回紹介いただいた博物館の「学習キット」、いろいろ試してみました。県立美術館の「ビルダーカード」は、10cm、25cmの円盤を複数組み合わせる巨大オブジェをつくるキットですが、子供達は創造力豊かで、私達が思いもかけない、びっくりするようなものを作っていくのが印象的でした。脚立を使わせると、高いものをどんどん自分達で作っていく。「ここで寝ることができるよね」というようなものまでつくってしまうのです。この

「ビルダーカード」キットを通して、子供達の豊かな感性や未来性が育まれるのを感じました。そういうものを博物館・美術館の方でつくって提供頂ければ、そのようなものに興味をもった子供達が生まれてくるのではないかとも思いました。

いま新型コロナで子供達も家にいる機会が増えました。そんな中で、例えば博物館を探検できるような双六などをつくっていただけると、もっとよいのでは、とも思った次第です。博物館や美術館から、小さい子供達が興味・関心を抱くようなものをこれからも提供いただけると、利用する側としては助かります。

また、今日御紹介いただいたような高度なコンテンツもよろしいのですが、博物館には本物の収蔵品があります。その中で子供達はいろんなものを、自分達で見て、感じて、触って、聞いて、体験していくと思います。いかに子供達に興味・関心をいだかせ、その興味・関心を、どのように繋げて新たなもの発見させていくか。そのきっかけになるようなキットがあればと、博物館・美術館に期待しております。

○西田議長：

現在のわれわれにとって究極の課題でもあることを細井委員に発言いただきました。すなわち、デジタル時代における実体験の重要性ですね。実物を見て、触って自分で発見するという体験の重要性。デジタルの時代だからこそ、本物の実物が沢山そろっている博物館に期待されていることだと思います。そのうえで、体験とデジタルをいかに複合させていくかということですね。

また、湯浅委員には、博物館収蔵庫における戦略的な考えかたの重要性ということも御指摘いただきました。かつて、京都大学理学部の河野昭一教授が、雨漏りがする植物標本庫をマスコミに紹介して大きく報道され、その結果標本庫改修の予算がついた、というような事例もあります。戦略的に行動する必要性もあるということですね。

この協議会の役割として、この協議会での議論や提案が、県の上の方まで届き、改善につながればと切に願う次第です。

○西田議長：

これで議事のほうは終了いたしました。傍聴人の方は御退席をお願い致します。

(傍聴人退席)

○西田議長：

事務局に議事の進行をお返しします。

○事務局：

これで、本年度の協議会は終了となります。来年度も3回の協議会を予定しております

ので、よろしくお願い申し上げます。また本日の議事録につきましては、追って委員の皆様
様に御確認をいただき、ウェブサイトにおいて公開させていただく予定です。

以上で、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。